

市民アンケートへの協力ありがとうございました

日本共産党議員団がすすめてきました「(仮称)厚生産業会館に関するアンケート」の開封・集計作業を、8日、福祉交流プラザで行いました。

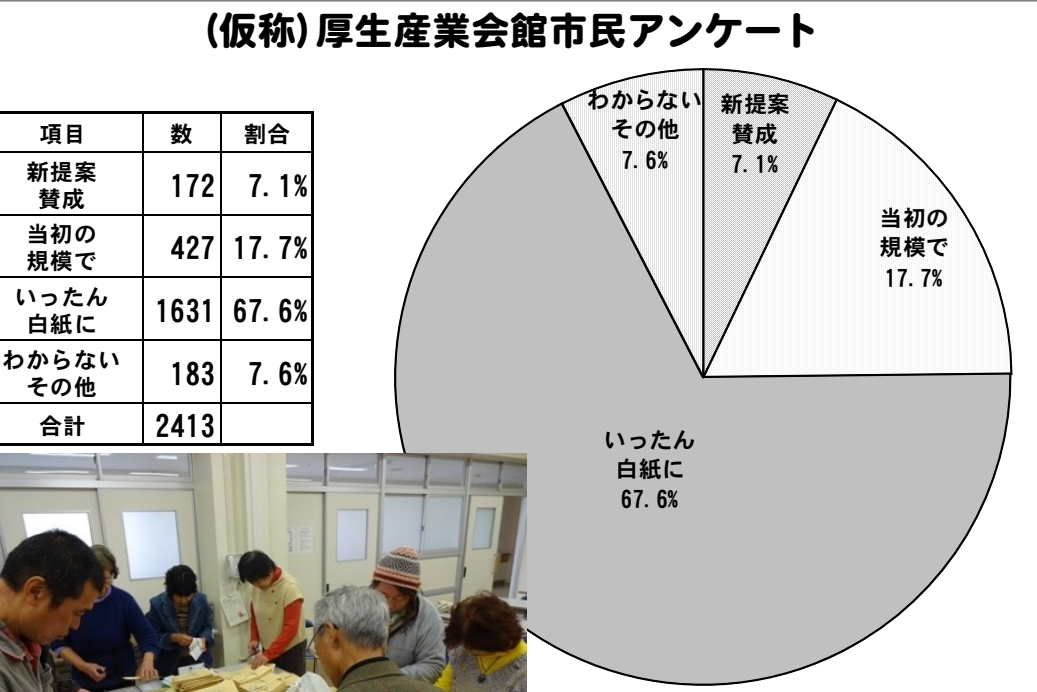
アンケート配布者などに直接持参してくださった分を含め、回収できた数は2525通です。封筒の中には「(仮称)厚生産業会館に関するアンケート」が入っていないものが110通ほどあり、最終的に「(仮称)厚生産業会館に関する

アンケート」の回答数は2413でした。ご協力いただきましたみなさんに心から感謝申し上げます。

「いったん白紙に」67%

開封した結果、「いったん白紙に」という回答が圧倒的多数で67.6%、市の新提案に賛成は7.1%にとどまりました。

回収率は約4%ですので、これが民意だと言い切ることはできませんが、市が進めようとしている計画に疑問を持っている市民が少なくないことは明らかです。改めて市民の意思を住民投票などで確認する必要があります。今回のアンケートにはコメント欄を設けましたが、新提案に賛成のものも含め、びつくりするほどたくさんコメントを寄せていただきました。なかにはアンケート用紙の裏面までびつしり書いてあるものがありました。



日本共産党議員団ではアンケート調査結果を市に伝えるとともに、お寄せいただいたコメ

ントとともにしっかりと分析して、今後の対応についても決めていきたいと思っています。コメントはなるべく早くまとめ、議員団のホームページや私のホームページなどで発表する予定です。コメント数が多いので、しばらくお待ちください。よろしくお願いします。

三和区の産廃中間処理施設跡地を視察

6日、三和区宮崎新田へ行き、産業廃棄物中間処理施設跡地を視察しました。今回の視察は、「三和の水とみどりを育てる会」などからの呼びかけで行われました。当日



吉川区のM子さんの押し花作品。素敵な押し花、絵画などの作品がありましたなら、教えてください。掲載します。

は「育てる会」の長尾会長や前山事務局長から案内していただき、現地を視察しました。市議会からは私の他に中川、石田、小林の3人の議員が参加していました。

同跡地では産業廃棄物が県の行政代執行(2005年〜2006年)で「撤去された」ものの、まだ3分の1ほど残されています。行政側は安定品目なので心配なしとしているようですが、「育てる会」が指摘してきたように、「残置」された産廃には安定5品目に入らないものがいっぱいあって、野ざらし状態になっています。同会によると、今春の現地調査では有害物質と思われるものが水抜きから出ていたということでした。そばのたぬ池の色、気持ち悪い色になっていましたね。

視察が終わってから、参加者で意見交換しましたが、行政側の方では、現状のままでいいと思っていないものの、撤去に向けてすぐ動く気配はなく、今後、粘り強い運動が求められているなど感じました。日本共産党議員団でも対策を考えていきたいと思っています。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1683 2014.11.16
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第三三一回

小春日和の日に

小春日和のある日、母は居間の南側の廊下で日向ぼっこをしながら黙々と柿の皮むきが続けていました。よほど集中していたのでしよう、私が近くで咳をすると、「お

おつ、とちやか」と言って驚きました。
柿は牛舎の近くにある八珍柿です。忙しく動いているから私に声をかけてもだめだろ
うと、母は大潟区に住む弟に頼んでもいでもらったようです。すでに皮むきが終わった
ものは細い縄にくくりつけ、二階の窓のところにつるしてあります。この日、皮むきし
ていたのは、そのときの「残りもの」でした。やわらかな陽射しのなかで、母は細い目
で柿と包丁を見つめ、「干せばうんめし、もつたないしなあ」と言いました。

私はこの日、地元にいる時間がけっこうあつて、お昼前にいったん家に戻りました。
じつは私には母に訊いてみたいと思つていたことがありました。「春よ来い」に「食
いっからし」のことを書いたことをきつかけにして、大島区岡のテエ子さんと母と板山
の伯母の家に集まつて三人でお茶飲みをしようという話を持ち上がり、先日、三人が
寄つたのです。その様子を訊いてみたいと思つていました。

「おまん、この間、板山へ行つて来て、いかつたかね」と訊くと、
「いかつたよー、かちやが伊作からごつつお取つてくんかつし、杉（屋号）のかちや
からもまるつこい、そいもんもらつた……」と言いました。

「丸っこい、そいもん」というのは何かと思つたら、コタツの上に置いてあつた丸い入
れ物に入つた奈良漬でした。

笑つてしまいましたね。いかつたかどうかの一番先に食べ物のことを口に出したから
です。このところ、母は美味しいものがあれば、次々と食べてしまいます。

母が板山の伯母のところへ行つたのはほぼ一年ぶり、岡のテエ子さんに会つたのは数
十年ぶりだつたようです。

七人姉妹の中で生きているのは母と伯母、会つた時に気になるのは健康状態です。母
は、「板山のぼちや、すっかりしていたよ。小姑だつたテエ子さんから毛糸で編んだい
い靴下はかしてもらつて、ぽんぽんとはいっていた」と伯母の様子を教えてくれました。

九〇歳の母は時どき、私にはわからない自作の言葉を使います。それも世間でごく普
通に使われている言葉のように使うのです。でも今回の「ぽんぽんとはいっていた」とい
う言葉からは、伯母がうれしそうな表情で靴下をはいている光景が目につかびました。

テエ子さんとは数十年ぶりに再会でき、とても懐かしかつたらしい。「テエ子さんに
はへさで会つた。あの人、岡村のいい家にいなんがど。『おまん、ちつとも変わらん
の』と言わんたすけ、『なして、顔かくさんきやならんようだ』とオラ、言つたがど」
と話してくれました。テエ子さんとその後、話がはずんだことが想像できます。

三人がお茶飲みをしたのは伯母が寝起きしている部屋です。板山のかちややシュウジ
さん、それに、近所の、目のくりくりしたおばあちゃんと一緒に楽しいひと時を過ごし
たようです。たくさんしゃべり、食べ、伯母の家で食べきれなかつたものはお土産にも
らつてきたとか。

私が再び外へ出ていく時間になつた時も母は柿の皮をむき続けていました。私が立ち
上がると、母は柿を見つめながら、「板山のぼちや、別れ際にサイナラと言つたら、オ
レの手、しっかかんとおさくがど。まんで手に力ある。力あればまだ大丈夫だ」そう
言つてフフフと笑いました。

(仮称)厚生産業会館や地元の切実な問題で発言相次ぐ

市議会主催の議会報告会・意見交換会が10日、11日と市内の4会場で
行われました。私は公民館谷浜分館
と吉川コミュニティプラザ会場での
会に参加しました。

このうち谷浜分館会場では、30
人近い市民が参加されました。地
元だけでなく、遠くから若い人た
ちの参加もありました。

ここでは「鳥獣による農作物被害、今年は増えた。5畓ほ
どの田んぼを耕作しているが電気柵で囲むと約80万円かかる。対策を研究してほしい」
「保育園があり、中学校がある、この近くでクマが生息して
いる。柿の木には爪でひつか
かれたあとがあり、大量の糞も
ある。すぐに対策を」「介護保
険の説明会場、もっと増やして
ほしい」「たにはま保育園の入
り口がよくわからない。看板設
置を働きかけてほしい」などた
くさんの要望が出されました。

40人近い人が参加した吉川コ
ミュニティプラザ会場では全市
的な課題についての質問が多
かつたですね。「(仮称)厚生
産業館会館、基本設計では大幅
増額となっている。社会資本整



備総合交付金はどういう交付金か。
財政危機の中、本当に必要な施設な
のか。高田区地域協議会では不適當
との答申だつた。いったん白紙に戻
すべきではないか」「私個人として
はどうやったら早く安く東京へ行け
るかが関心事だ。ほくほく線に快速
走らせてほしい。議会で議論された
か」「(仮称)厚生産業会館、どの
ような収支計画が提示されているの
か。ペイできるのか」などです。

会で出された要望などについては
課題調整会議などで検討されます。

写真は11日の吉川会場です。

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロ
シーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり
0.016～0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だ
とのことです。

	11月5日(水)	11月12日(水)
上越南消防署	0. 0 4 3	0. 0 3 0
上越北消防署	0. 0 5 0	0. 0 5 7
新井消防署	0. 0 4 3	0. 0 5 0
頸北消防署	0. 0 4 7	0. 0 5 7
頸南消防署	0. 0 4 0	0. 0 4 3
東頸消防署	0. 0 5 0	0. 0 4 7
高士分遣所	0. 0 4 7	0. 0 4 3
名立分遣所	0. 0 4 0	0. 0 4 6

春よ来い

第三三一回

小春日和の日に

小春日和のある日、母は居間の南側の廊下で日向ぼっこをしながら黙々と柿の皮むきが続けていました。よほど集中していたのでしよう、私が近くで咳をすると、「お

おつ、とちやか」と言って驚きました。
柿は牛舎の近くにある八珍柿です。忙しく動いているから私に声をかけてもだめだろ
うと、母は大潟区に住む弟に頼んでもいでもらったようです。すでに皮むきが終わった
ものは細い縄にくくりつけ、二階の窓のところにつるしてあります。この日、皮むきし
ていたのは、そのときの「残りもの」でした。やわらかな陽射しのなかで、母は細い目
で柿と包丁を見つめ、「干せばうんめし、もつたないしなあ」と言いました。

私はこの日、地元にいる時間がけっこうあつて、お昼前にいったん家に戻りました。
じつは私には母に訊いてみたいと思つていたことがありました。「春よ来い」に「食
いっからし」のことを書いたことをきつかけにして、大島区岡のテエ子さんと母と板山
の伯母の家に集まつて三人でお茶飲みをしようという話を持ち上がり、先日、三人が
寄つたのです。その様子を訊いてみたいと思つていました。

「おまん、この間、板山へ行つて来て、いかつたかね」と訊くと、
「いかつたよー、かちやが伊作からごつつお取つてくんかつし、杉（屋号）のかちや
からもまるつこい、そいもんもらつた……」と言いました。

「丸つこい、そいもん」というのは何かと思つたら、コタツの上に置いてあつた丸い入
れ物に入つた奈良漬でした。

笑つてしまいましたね。いかつたかどうかの一番先に食べ物のことを口に出したから
です。このところ、母は美味しいものがあれば、次々と食べてしまいます。

母が板山の伯母のところへ行つたのはほぼ一年ぶり、岡のテエ子さんに会つたのは数
十年ぶりだつたようです。

七人姉妹の中で生きているのは母と伯母、会つた時に気になるのは健康状態です。母
は、「板山のぼちや、すっかりしていたよ。小姑だつたテエ子さんから毛糸で編んだい
い靴下はかしてもらつて、ぽんぽんとはいていた」と伯母の様子を教えてくれました。

九〇歳の母は時どき、私にはわからない自作の言葉を使います。それも世間でごく普
通に使われている言葉のように使うのです。でも今回の「ぽんぽんとはいていた」とい
う言葉からは、伯母がうれしそうな表情で靴下をはいている光景が目につかびました。

テエ子さんとは数十年ぶりに再会でき、とても懐かしかつたらしい。「テエ子さんに
はへさで会つた。あの人、岡村のいい家にいなんがど。『おまん、ちつとも変わらん
の』と言わんたすけ、『なして、顔かくさんきやならんようだ』とオラ、言つたがど」
と話してくれました。テエ子さんとその後、話がはずんだことが想像できます。

三人がお茶飲みをしたのは伯母が寝起きしている部屋です。板山のかちややシュウジ
さん、それに、近所の、目のくりくりしたおばあちゃんと一緒に楽しいひと時を過ごし
たようです。たくさんしゃべり、食べ、伯母の家で食べきれなかつたものはお土産にも
らつてきたとか。

私が再び外へ出ていく時間になつた時も母は柿の皮をむき続けていました。私が立ち
上がると、母は柿を見つめながら、「板山のぼちや、別れ際にサイナラと言つたら、オ
レの手、しっかかんとおさくがど。まんで手に力ある。力あればまだ大丈夫だ」そう
言つてフフフと笑いました。

(仮称)厚生産業会館や地元の切実な問題で発言相次ぐ

市議会主催の議会報告会・意見交換会が10日、11日と市内の4会場で
行われました。私は公民館谷浜分館
と吉川コミュニティプラザ会場での
会に参加しました。

このうち谷浜分館会場では、30
人近い市民が参加されました。地
元だけでなく、遠くから若い人た
ちの参加もありました。

ここでは「鳥獣による農作物被害、今年は増えた。5畝ほ
どの田んぼを耕作しているが電気柵で囲むと約80万円かかる。対策を研究してほしい」
「保育園があり、中学校がある、この近くでクマが生息して
いる。柿の木には爪でひつか
かれたあとがあり、大量の糞も
ある。すぐに対策を」「介護保
険の説明会場、もっと増やして
ほしい」「たにはま保育園の入
り口がよくわからない。看板設
置を働きかけてほしい」などた
くさんの要望が出されました。

40人近い人が参加した吉川コ
ミュニティプラザ会場では全市
的な課題についての質問が多
かつたですね。「(仮称)厚生
産業館会館、基本設計では大幅
増額となっている。社会資本整



備総合交付金はどういう交付金か。
財政危機の中、本当に必要な施設な
のか。高田区地域協議会では不適當
との答申だった。いったん白紙に戻
すべきではないか」「私個人として
はどうやったら早く安く東京へ行け
るかが関心事だ。ほくほく線に快速
走らせてほしい。議会で議論された
か」「(仮称)厚生産業会館、どの
ような収支計画が提示されているの
か。ペイできるのか」などです。

会で出された要望などについては
課題調整会議などで検討されます。

写真は10日の谷浜分館会場です。

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロ
シーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり
0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だ
とのことです。

	11月5日(水)	11月12日(水)
上越南消防署	0. 0 4 3	0. 0 3 0
上越北消防署	0. 0 5 0	0. 0 5 7
新井消防署	0. 0 4 3	0. 0 5 0
頸北消防署	0. 0 4 7	0. 0 5 7
頸南消防署	0. 0 4 0	0. 0 4 3
東頸消防署	0. 0 5 0	0. 0 4 7
高士分遣所	0. 0 4 7	0. 0 4 3
名立分遣所	0. 0 4 0	0. 0 4 6